

神戸市シルバーカレッジ情報誌

2024年6月第222号



「おいらの出番がやってきた」写真クラブ 国際29期 奥田 昭仁

—目 次—

2～3	入学式
4～5	入学感想
6～7	卒業式
8～9	歓送交流会
10～11	新入生歓迎交流会
12～13	教室だより：国際30期・健康30期・生環30期・美工30期
14	トピックス：第51回神戸まつりに参加して
15	文芸サロン・事務局だより
16	グループわ だより・図書室だより・編集後記

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。
「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページ「☐お問い合わせ」からお寄せください。
<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右のQRコードを読み取ってアクセスできます。



神戸市シルバーカレッジ第31期生入学式

令和6年4月8日、神戸市シルバーカレッジ第31期生入学式が、カレッジホールにおいて行われました。本年度入学の学生は316人。新型コロナウイルス感染症の法上の位置づけが5類に移行後の初めての入学式で、音文29期生による校歌斉唱もあり、学園生活が通常に戻ったことを実感した入学式でした。

【式辞】

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔



31期生の皆さま、ご入学おめでとうございます。学長の前田です。今日と明日は神戸市内でも方々で入学式が行われているようです。神戸市内の桜は昨日が満開だったそうです。

今日、当シルバーカレッジは316人の新しい仲間を迎えました。大きな期待と

ちよびりの不安を胸に新たな経験が始まろうとしています。当シルバーカレッジは31年目を迎えています。この間の卒業生は1万人に達しようとしています。

ここで私が最近読んだ本を紹介させていただきます。ティク・ナット・ハンというベトナムの禅僧が書いた本です。タイトルは「微笑みを生きる」というものです。それによると、われわれは「いま」を犠牲にしているというのです。われわれは幼い頃から、将来達成すべき目標を設定し、それに向かって努力すべきだと教え込まれてきました。そして目標を達成することは称賛されることとされてきました。「いま、この瞬間」は遠い将来のために存在していると認識し続けてきました。いずれ社会で成功し、皆から尊敬される生活に幸福はあると教え込まれ、信じ込んで努力してきました。将来達成すべき目標のために、いま歯を食いしばって刻苦勉励するのだと。そのためにいまは犠牲にするという考え方です。

しかし著者によれば、幸福は遠い未来にあるのではなく、いま、ここにしかありえないというのです。いま、この瞬間こそが、私たちのいのちの「実在」だというのです。日常の一瞬一瞬そのものに気づき、楽しみ、微笑むなかに幸福はあると。「いま」を犠牲にせずに「いま」を生きなさい、という教えであります。

われわれシニア世代を考えると、年齢あるいは立場で残された時間はそう多くなく、将来に何かを求め、期待し、獲得するのは困難と言えるかもしれません。そういう意味でもわれわれシニア世代こそ、「いま」を犠牲にするのではなく、「いま、この時間」を大事にしなければならぬのかもしれないかもしれません。

幼い頃を思い返せば、一日中遊びまわって、日が暮れると疲れ切ってお腹をすかせて自宅に帰り、親が作ってくれた夕食を食べて眠りにつきました。明日のことを心配することも

なく、将来のことで思い悩むこともなく、毎日が楽しくて仕方のない時間でした。われわれにとっても、将来のためにいまを犠牲にすることなく、いま、ここにある幸せに気づいて、日々を暮らすことが大切なのかもしれません。

話が変わりまして当シルバーカレッジへの入学目的が、新たな人との出会いを求めたものであった方も多くおられると思います。入学したら、ぜひ友人を見つけてください。たわいない日常の会話を気兼ねなくできる友人を。気兼ねのない友人が見つければ学園生活は一層楽しいものになります。

友人を作るコツを少し考えてみました。他人の話をよく聞いてあげる、耳を傾けるというのが一つあります。人は自分の話を聞いてもらえると、その人は私のことをわかってくれたと感じて相手に好感を持ちます。聞くときは、「ふーん」、「なるほど」など相づちを打ちながら聞いてください。そうすると二人は馬の合う友人になれることでしょう。この方法はカウンセリングのテクニックとしてわれわれに伝えられているものです。

ふれあいホールでは入部の勧誘が盛んに行われています。その様子を見て友人を作る方法はクラブに入ることだと思ふようになりました。クラブや同好会は60以上あります。入部しますとクラブのことだけでなく学園生活全般についてもいろいろと情報が得られます。カレッジ生は平均4～5のクラブに属していると言われています。ぜひクラブに入ることをお勧めします。

話の合う友人は家族同様に大事な存在です。たわいない話をできる友人がいるということは重要なことです。ここにいる方々の中には、勤務先を退職し、家庭内に閉じこもり、生活が単調で変化や刺激のないものになってしまっていた人もおられるかと思います。人と人とがつながっている、あるいは自分も社会に参加している、取り残されていない、ということが人間の生活の中でいかに意味のあることかに気づかれた方も多いかと思います。

皆さまがここシルバーカレッジにおいて、日々の学習、講師や友人との交流などから、かけがえのない時間を持たれることを期待しています。学習すること、友人と付き合いの中で、いまを犠牲にしない生き方や他者とつながっている実り豊かな生活を確立してください。それで一つお願いがあります。当シルバーカレッジの目的の一つに他者への貢献があります。皆さまのお住いの地域、困っている人々、支援を必要としている方々にできる範囲の貢献をしていただきたいと思います。これをもって新入学の皆さまに贈る言葉とさせていただきます。

【歓迎のことば】

在校生代表 園芸29期 松林 秀幸



新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

今日の門出を迎え、新しい学びを得、感性をさらに豊かにできるようにと決意をあらたにしてのご入学かと想像しております。31期の皆さまを歓迎しまして一言ごあいさつを申し上げます。

この晴れの日にこのような機会を与えていただきました私は、園芸を専攻しております。

朝、皆さまを迎えました玄関周りの花壇、心とんでいただきましたでしょうか。学園の花壇に咲く花々のように皆さまの学びの旅も色とりどりで豊かになることを願っています。皆さまがこれから植える知識と経験の種で一層美しくなるでしょう。

私自身2年前、コロナ禍で毎日の生活がいささか単調でしたが、園芸での学びのなかで植物の成長に一喜一憂する新鮮な体験が、その打破につながっております。

また、ボランティア活動として神出自然教育園で子供たちの自然体験学習のお手伝いも私の生活の張りとなっています。皆さま方もそれぞれの専科で楽しみを見つけれられることでしょう。

10月には学園祭があり、クラブ活動の成果を発表する場として一番活気づく行事になっています。クラブ活動では、趣味を同じくした仲間ができる楽しみもあります。皆さまのご協力によりよい交流の場になっていきましょう。時には、雑草を抜くように困難なことを乗り越えなければならないこともありますが、その時は、周りの先輩に遠慮なくご相談ください。皆気さくに適切な助言をしてくださるはずですよ。

最後になりますが、これからは新しい環境に身を置くわけですからどうぞお体にはくれぐれもご注意ください。そして、ここでの新しい仲間との出会い、新しい学び、新しい楽しみなど学園生活を大いに謳歌してください。

これをもちまして歓迎のあいさつといたします。



【新入生代表あいさつ】

新入生代表 美工31期 稲山 みどり



令和6年度、神戸市シルバーカレッジの新入生を代表いたしまして一言ごあいさつ申し上げます。

私たち新入生は、動機はそれぞれ違いますが、みんなが青春時代に立ち返ったような気持ちでドキドキ、ワクワクしています。

私が入学を希望したきっかけは、友人が会うたびに生き生きとされており、シルバーカレッジに入学して学んでいることを知ってからです。その方は、「毎日とっても楽しいよ。充実しているよ。早くおいでよ」と誘ってくださいました。さっそく説明会に参加してみると、緑あふれる広大なしあわせの村の敷地内に立つシルバーカレッジ、それぞれの教室で熱心に学んでおられる学生の皆さまの生き生きとした姿、何より各専門の先生から学べる素晴らしさに感動いたしました。その日のうちに入学希望を出して帰り、今こうしてこの場に立っています。

10年前、小学校を退職し、その後縁あって障害を持つ成人の方々のグループホームで働いています。食事を作ったり、身の回りのお世話をさせていただく仕事を通じて、どの人も元気で笑顔で暮らしていくことの喜びを肌で感じる毎日です。仕事が楽しく、今自分にできることがあることに感謝しています。

シルバーカレッジのモットーは「再び学んで 他のために」とあります。今年古希を迎え、もう年だからと思いましたが、「もっと学びたい」、「人とつながりたい」、「動けるのは今しかない」と強く願うようになりました。

今日からシルバーカレッジの学生として仲間に入れていただき、3年間大いに学び、人生をより豊かなものにしていきたいと希望に胸を膨らませております。そして学んだことを地域や他の人の役に立てることができるように、学びを確かなものにしていきたいと思っています。

先生方におかれましては、長年蓄積されました知識・技量を私たち学生に伝えてくださいますとともに、日々絶え間なく変化していく世の中の新しい知見もあわせてご教授くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



31期 新入生に入学の感想を聞きました

《健康ライフコース》

村田 嘉昭

昨年6月に42年間勤めた会社を退職して、約10か月はゴルフに行く以外はだいたい家で過ごしていました。その時、嫁からKSCのことを聞いて一緒に入ることを決断しました。

今までは、同級生や会社の同僚以外とはあまり交流が無かったのですが、新しい出会いや学びを求めて、期待半分・不安半分でこのたび入学しました。1か月が経ちましたが、興味深い授業・ウキウキするクラブ活動など、何といっても登校のたび、新しい人々との出会いにワクワクする毎日です。この3年間を楽しみに進めていけることを確信しました。

濱田 茂治

会社時代縁の薄かった科目をということで、今回は生活環境コースでした。今回はピンピンコロリを目指して健康ライフに入りました。どのようにしたら目標が達成できるかを学び実践して行きたいと考えております。

今回はコロナの影響で制約が多かった学園生活でした。マスク無しの顔を見ていない人も多くおります。今回は制約のない学園生活を送れることを楽しみにしております。学びとともに、友人を増やし一緒にエンジョイして、「人生第二幕」を素晴らしいものにしたいと思っています。



《国際交流・協力コース》

京極 祐一

上品で落ち着いたシルバーカレッジの建物の玄関に入学後初めて入ると、そこには熱気が満ちあふれていた。サークル紹介パネルの説明者と、その説明を聞くシニアの方々がごった返している。たくさんの種類のサークルがある。このワクワク感は何だろう。みんなが笑顔だ。自分が若いころの、高校・大学入学直後のサークル紹介を思い出してしまった。この「しあわせの村」のカレッジでは授業に加え、サークル活動を楽しみにしている人が非常に多いと思う。さて、自分はどのサークルに入れていただこうかな？

宮脇 弘幸

シルバーカレッジに入学したのは、退職後の人間関係を広げるためです。クラブが多くあるので、積極的にやっていきたいと思っています。

学業のほうは、明治時代の公務員に汚職が少なかったことに注目しています。世界的に公務員の汚職は多く、やるのが常識になっている国もあります。

なぜ日本ではほとんどなかったか？調べていく過程で、当時の日本人には諸外国と全く違った意識があったのかもしれない。それを研究してみたいです。

《ECOライフコース》

吉井 潤

知り合いの方の勧めもあって、昨年の11月にオープンキャンパスに参加しました。仕事も昨年の12月でリタイアし、新たな友達作りと新鮮な学びを求め入学することを決めました。

「再び学んで 他のために」をモットーとして、これからの3年間、ECOライフコースでの学びを通して持続可能な社会作りを少しでも意識できるよう学んでいきたいと思っています。

クラブ活動も現在のところ2つ入部し、親切で優しい諸先輩にご指導頂いており、楽しくワクワクなカレッジライフがスタートしています。学びとクラブ活動を通じて少しでも地域に貢献できる人間になれるよう努めていこうと思っています。

伊藤 雅子

今の私が「入学式!!」と何か不思議な気持ちでその日を迎えました。前田学長からの式辞の中で「未来ではなく今、目の前の幸せを考えてください」とのお言葉があり、この時は少々複雑な気持ちでございました。しかし、カレッジに通うにつれ、上級生の方々が生き生きと活動され、また同期の新入生達も「どのサークルに入ろうか・・・」と目をキラキラさせながら思案されている様子に、ここには本当に今の自分の時間を有意義に楽しみたいと考える多くの方々が集っておられるのだなと強く感じるようになりました。その熱い思いが次のステップ、社会貢献にも繋がっていくのですね。一員になったことを光榮に思い、たくさん刺激をいただき、楽しみたいと思っています。

《美術・工芸専攻》

岡田 美津子

神戸市シルバーカレッジに入学し、授業も始まり久しぶりの学校生活を経験しておりますが、先輩方のクラブ活動や練習風景を拝見させていただき、今までの生活の中で体験できないことができるとワクワクしています。これから3年間絵画と陶芸を学び、ボランティア活動にも参加させていただき、いろんな活動を通して自分自身も成長していきたいと思っています。

山本 哲也

私の祖父は蒔絵師であり、戦前の蒔絵師がいかに羽振りの良い商売だったかが、家では伝説のように語り継がれてきました。しかし、終戦後、漆器市場が壊滅的に崩壊してしまい、私の親の世代では誰も跡を継ぐものがいませんでした。

そんな話を子供の頃から聞かされていたせいか、絵師という言葉に特別な輝きを感じていましたが、退職後、ようやく絵を描くチャンスがやって来たように感じています。

絵画ボランティアグループにも入り、祖父がかつて見た世界を、自分も見てみたい、という希望に燃える毎日です。

《音楽文化専攻》

深坂 秀子

カレッジでの楽しかった学園生活をもう一度送りたい。今度入学するなら絶対「音文」との強い思いをもって申し込み、再入学（2度目の挑戦）で5人の枠を突破し期待の音楽文化専攻コースへ入学することができました。

入学早々に新入生歓迎交流会という課題にあたふたしている日々を送っていますが、卒業までに楽しく心に響く合唱など、多くをクラスの皆さんと共に作り上げていきたいと思っています。これからの学園生活が楽しみでいっぱいです。

谷口 清

今春、国際交流・協力コースを卒業し、音楽文化専攻に再入学しました。1年次のクラス代表はカレッジの事情を知る再入学者が良いと考え、クラス代表になりました。

国際と音文の違いについて、学ぶ対象は知識と技術に分けられ、国際では知識がほとんどでしたが、音文では知識と技術の両方だと理解しています。カレッジ内のイベントの際、国際は視聴するだけでしたが、音文は演奏などを披露するので忙しくなります。

国際3年間の、混声合唱団コー〇KSCでの代表を含む経験を活かして、頑張りたいと思います。



《園芸専攻》

山本 康博

もともと会社員時代から、仕事とは別に地元の認定こども園でボランティア活動をしてきていましたが、退職後はその活動を少し格上げして継続支援していくとともに、振り返れば自宅の庭が手つかず状態にあった機会を捉え、今回園芸の基本的な知識を身に付け、身近で花壇づくりや果樹などを収穫できるようにしたいとの思いで園芸を専攻しました。

クラスには、園芸へのさまざまな思いを持った方々が集まっ

ていますので、皆さんからの教を乞いながらも、和気あいあいと親睦を深めつつ、楽しんでカレッジ生活を送りたいです。

中田 賢和

私は食文化からの再入学生です。退職後少しでも自給自足ができるように、シルバーカレッジの食文化で調理などを学び、園芸で野菜作りなどを学びたいと頭で描いたことが現実になりました。食文化の調理実習で学んだことで、今では家で料理を作るようになり家族が喜んでいます。

亡くなった義母がしていた畑があり、野菜はトマト、きゅうり、なす、大根、玉葱、ジャガイモなど、果樹は柿、みかん、無花果、梅などを栽培しています。



カレッジで土作り、栽培方法、害虫駆除の仕方などを基礎から学び、残り少ない人生を有意義なものにしていきたいと思います。

《食文化専攻》

前部 昌義

昨年、仕事を辞めたのを機に新たな出会いと学びを求めて入学しました。単身生活を経験しているので簡単な料理ならできますが、最近、自分で作るのは麺類ばかり。本校で料理の基礎を学んでレパートリーを広げたいと考えています。食を通じて地域に貢献できることを見つけられれば、とも思います。

すでに複数のクラブに入会し、同好の士との交流を大いに楽しんでいます。古いギターでも新しい弦を張れば輝きを取り戻すように、本校での新鮮な刺激を“林住期^(※)”後半を生きる活力に変えていくつもりです。

(※) 林住期（りんじゅうき）は、50歳から75歳頃まで。古代インドの人生を4つに分けたステージ（学生期、家住期、林住期、遊行期）のひとつで、家族や社会の役割を終え、自己成熟を目指す時期。（情報誌編集委員会調べ）

笹部 勇

サラリーマン生活50年を機に退職しました。さて、第二の人生、何をして過ごすかいろいろと頭の中で考えていましたが、いざ現実となると迷い始めていました。そんな時に妻から義母が卒業したシルバーカレッジの入学案内のパンフレットを渡され読み込んでいくなか、これだと思い入学しました。

食文化を専攻したのは、子育て家事は妻の仕事と思いサラリーマン生活を過ごしてきましたが、今の時代に取り残された思いもあり、改めて自分自身を磨き直し、人との交流を深めながら家庭や地域社会に少しでも貢献していきたいと思ったからです。

神戸市シルバーカレッジ第28期生 卒業式

令和6年3月22日、神戸市シルバーカレッジ第28期生の卒業式がカレッジホールで行われました。今年の卒業式は、新型コロナウイルスが感染法上5類に移行され、感染拡大防止の処置がない卒業式となりました。今回卒業する第28期生はコロナ対策とともに学園生活をすごされ、その環境を乗り越えた充実感を胸に晴れやかな表情で卒業式を迎えました。

【式辞】

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔

第28期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。ここにシルバーカレッジは204人の卒業生を送り出すことになりました。

皆さまが入学されたのは、2021年4月でした。この3年間で少し振り返ってみますと2021年4月というのは、新型コロナウイルス感染拡大の1年を経過したときでした。ちょうどこの年の2月にワクチン接種が開始されたかと思います。この年、新型コロナウイルスは変異を繰り返し、中でも感染力が強いデルタ株が出現し、夏には第5波が発生して新規感染者数が連日過去最高となる日々を経験しておりました。

翌年2022年になりますと、2月にはロシアがウクライナに侵攻、首都キーウにミサイル攻撃を行うという事件が起こっています。これはもう既に2年以上経過しているわけですが、今なお戦争は続いているという状態で、この侵攻によって、両軍合わせて30万人以上の死者が出ていると報道されています。

また、この年の4月4日には北海道知床半島で観光船が遭難するという事故がございました。4月の北海道というと海水温は非常に低い時期です。乗員と乗組員を含む26人が搭乗していましたが、多くの方が亡くなり、今も行方不明の方がいらっしゃいます。

2023年5月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」になり、いわゆるパンデミックからとりあえずは解放されるに至りました。

この年の10月にイスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの報復攻撃がありました。イスラム主義組織ハマスによるイスラエル入植者への奇襲攻撃で始まった戦闘は、今現在、発生から5か月が経過していますが、ガザでのパレスチナ人の死者は既に3万人を超え、食料不足で乳幼児も飢えに苦しむ悲惨な状況が続いているということです。

今年に入りましては、何と申しまして、元日夕方の能登半島地震の発生です。犠牲者は300人を超え、おびただしい数の家屋が損壊しました。3か月経とうとしていますが、未だに十分には復旧されていないのが現状です。

皆さまはこのような3年間をこのシルバーカレッジで過ごされたわけです。最初は、初対面のクラスメイトのあいだで、ぎ

こちなくあいさつをしたことと思います。そしてすぐに打ち解け、カレッジに来ておしゃべりをするのが楽しみになりましたね。そのような状況で、皆さまは3年間勉強を続け、クラブ活動にも励み、ここに卒業を迎えることになりました。

3年間のカレッジ生活はいかがでしたか。楽しいものでしたか。満足できるものでしたか。記憶に残るものでしたか。私は28期の皆さまとは2年間しかお付き合いしておりませんが、印象に残っておりますのは皆さまのグループ学習発表会、そして学園祭でした。多くの発表やパフォーマンスなどを見させていただきました。皆さまの、緊張しながらも一生懸命で生き生きとした表情が印象に残っております。この3年間、友とともにいろんな調査・実験・授業に文献調べなど、いろんなことを学習し、多くの先生方からいろんなことを教えていただき、また、多くの新しい友達ができたことと思います。

この3年間の経験を活かして、明日からはまた新しい生活を始めてください。毎日笑顔で暮らしてください。周りの人々を笑顔にさせてください。そして世の中にたくさんおられる障害のある方々、苦境にある方々、支援を必要としておられる方々、できる範囲で結構ですので、手を差し伸べてあげてください。それがわがシルバーカレッジの使命でございます。毎日が笑顔で過ごせる社会の実現に力を貸していただくことをお願いいたします。皆さまの先に、光輝く未来が待っていることを願って私の式辞としたいと思います。

ご卒業おめでとうございます。



【送辞】

在校生代表 食文29期 井上 克彦

28期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。29期食文化専攻の井上です。

高村光太郎の詩の中に『僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る』の一文があります。この詩は、人生の岐路に立った時に、応援してくれます。私は、会社退職後にシルバーカレッジへ入学して、これからどのように生きていくのか迷っていました。ボランティア活動、クラブ活動、学園祭などで先輩方と過ごして、学ばせていただきました。それは、初めから自分の生き方や人生は決定しているものではなく、自分から一步を踏み出すことによって、生き方や進路という道が自然と開けていくということです。年齢に関係なく、生きている限り、明日という未来は、平等にやって来ます。心の輝きを消さず、次の未来へ生きて、夢を繋ぎたいと先輩方を見て思いました。私も心の輝きを消さず、次の未来へ生きて、夢を繋ぐ姿を後輩に見せたいと思います。

以上、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



【答辞】

卒業生代表 食文28期 鷲尾 久義

本日はこのような立派な卒業式を開催していただき、そして充実した学園生活を支援いただき、誠にありがとうございました。卒業生を代表して一言お礼を申し上げます。前田学長、事務局の皆さん 本当にありがとうございました。本当に楽しい3年間でした。われわれ28期は、コロナの影響が残る2021年4月8日に入学しました。その17日後の4月25日に「三回目の緊急事態宣言」が発令されました。授業はオンライン授業に、そして調理実習は中止になりました。緊急事態宣言が終了した後も調理実習ではマスクの上からフェイスガードをする。そして食器は布巾を使わず、使い捨てのキッチンペーパーを使い拭き上げました。また、調理した料理を全員で食べるのではなく、各班一人は別室で食事をするという密を避けた対策が取られました。まさしく厳戒態勢での学習でした。おかげで、食文内での学内感染はありませんでした。今では懐かしい思い出です。

入学して早々にクラスの代表を決めることになりました。クラスの皆の顔ぶれを見ると、男性では自分が一番若いように見えました。ご年配の方に色々雑用をしてもらう訳にはいかない、との「敬老精神」でクラスの代表を引き受けました。しかし、クラスの皆は年を取っているが元気な人ばかりです。調理実習で作った料理を若者のような「てんご盛り」の大盛りはんを食べる喜寿近い人。80歳を超えて「あじさい山歩会」のクラブに入り、30℃超えの暑い日に「菊水山」へ山登りした人。元気な若者でもつらいのに本当に元気です。年を取ったのは見た目だけで、シルバーカレッジでは「敬老精神」など老人扱いは不要であると学びました。シルバーカレッジの学生は皆とにかく元気です。姿・形は変わり、日々老化していきますが、心と気持ちはいつまでも年を取らないことに気がつきます。

私は会社を退職してまったく仕事の無い生活になり、毎日する事がなく暇で暇な生活を送っていました。そこで仕方なく毎日昼ご飯を作ることにしました。しかし「ラーメン」「うどん」「スパゲッティ」程度しか料理を作ることができなくて、レパートリーの少なさに苦悩していました。そのような時、シルバーカレッジに食文化のコースがあると知り入学しました。入学して最初の調理実習では「肉じゃが」を作りました。その後、「和食」・「中華」・「洋食」、そして「正月料理」に「ケーキ」など色々な料理をつくりました。講師の先生方の親切丁寧な指導とクラスみんなの協力で、今ではレシピさえわかればどんな料理でも作れると思うくらい成長できたと自負しています。

「調理実習」・「グループ学習」・「スポーツ」・「聴講した他コースの授業」・「クラブ活動」、全てが楽しかったです。関心をもって受講・経験できました。楽しい思い出です。皆さま方の支えのお陰で、私たちは充実した学園生活を送ることができました、心からお礼申し上げます。明日から寂しくなりますが「再び学んで 他のために」の教えを胸に、人生100年時代、まだまだ「新しいことに挑戦して」これからの人生を切り開いてまいります。最後になりましたが、ご出席の皆さま方が「毎日」「楽しく」「元気」に暮らせますことを祈念して答辞とさせていただきます。本当に楽しかった。ありがとうございました。でも、本当にさびしい。



歓送交流会

3月1日及び11日～13日に、28期生各コース・専攻の歓送交流会がカレッジホールで行われました。

健康ライフコース

30期 大東 春樹

健康福祉から健康ライフのコース名称が変更になって初めての卒業を迎える28期生39人の歓送交流会が、3月12日にカレッジホールで盛大に行われました。在校生が大きな拍手で迎える中、3年生の入場でスタートしました。

始めに黒田常務理事、事務局コーディネーターの川崎さん、2年生代表、1年生代表がそれぞれに祝辞を述べられた後、海援隊の「贈る言葉」に乗せて3年間の思い出が詰まったスライドショーと続きました。その後各学年が混ざったテーブルごとの懇談があり、クラブ活動の楽しかった思い出や

グループ活動が大変だったなどそれぞれのテーブルで思い出話に花が咲いていました。



後半はアトラクションで、KSCアロ

ハハワイアンズの「涙そうそう」などの演奏・歌唱とフラダンス、KSCフォークソング・クラブの「東京ブギウギ」などの演奏・歌唱と続きました。そして、卒業生代表の山本さんが、「カレッジでは健康寿命をキーワードに『人・もの・こと』について多くのことを学び、たくさんの友人を得ました。『再び学んで 他のために』を実践していきます」とあいさつされました。最後に全員で谷村新司の「昴」を大合唱し、和やかな雰囲気の中歓送会を終えることができました。

国際交流・協力コース

30期 稲積 義則

3月12日にカレッジホールにて国際28期の歓送交流会が開催されました。60年前の東京オリンピックの入場行進曲をバックに、スクリーンには東京オリンピックや現上皇・上皇后両陛下のご成婚パレードの記録映像が投影される中を3年生が入場されるという、青春時代を思い出させる演出で始まりました。

実行委員長の開会の辞の後、グループ学習の裏話やカレッジ生活の体験談などに関した3年生へのアンケート結果に基づいたクイズで振り返りがなされました。後輩にとって非常に興味深い内容で、カレッジ生活を満喫された様子がかがえました。さらに、1か月前に結成された3年生バンド「The Happy ends」による生演奏が披露され、大盛況のうちに六甲おろしの大合唱で締めくくられました。

次に、2年生によるアジア各国のファッションショーが繰り広げられました。国際交流・協力コースらしい企画であり、華やかな衣装が印象的でした。最後に、ファッションショー参加者により「ご卒業おめでとうございます」とかかれたプラカードを

掲げてお祝いの言葉を贈られました。

心のこもった企画に時間はあっという間に過ぎ、1年生代表の送辞、3年生代表のお礼の言葉のあと、出席者全員で写真をとって終了しました。終始暖かな雰囲気の会となりました。



生活環境コース

30期 佐藤 修一

3月13日10時30分、1、2年生に迎えられて3年生が入場し、歓送交流会が始まりました。ご来賓あいさつ、校歌斉唱に引き続き、29期生の軽妙な司会進行に導かれ、「おもいでアルバム」の歌に合わせてスクロールされる、イベントや校外授業、エコクッキングなど3年間の学園生活での懐かしい「おもいでアルバム」を、みんなで辿りました。往時を思い出して思わず会場から声の上がる場面もあり、和やかなひとときでした。

その後、園田さんのリードで在校生が「乾杯」を、全員が「昴」を熱唱して一体感を高めました。

28期クラス代表の藤本さんからは3年になるとグループ学習がありグループ単位での活動が主体になる、フィールドワークなど親交を深める絶好の機会なので、クラブ、授業とともども、くれぐれも“楽しみながら”思い出に残る学園生活を送って欲しいとのエールをいただき、気持ちを新たにしました次第です。

最後に、ご着任以来4年間、生活環境コースのコーディネーターを務めて来られた青木さんが3月いっぱいまで定年退職なさるとのこと



とごあいさつがありました。退職後、自分時間を生きるのを楽しみにしているとのこと、こちらに通ってきた道なので感慨深いものがありました。ご苦労さまでした、そしてありがとうございました。

美術・工芸専攻

30期 前田 龍夫

3月13日にカレッジホールにおいて美工28期生歓送交流会が開催されました。卒業にふさわしい曲として30期生による「卒業写真」「乾杯」の合唱から始まりました。その後、事務局の加藤さんより28期生の入学から絵画や陶芸の授業風景、グループ学習までの懐かしい写真が暖かなコメント

と共に多数紹介され、3年間の楽しかったカレッジ生活を思い巡らせました。卒業生お一人ごとのメッセージでは、ご自身による自画像と共に楽しかった思い出、先生方や事務局への感謝の気持ちなどが表現されました。

その後、29期生が美工でのカレッジ生活を歌った「島人の宝」の替え歌「美工の宝」を声高らかに合唱しました。3学年合同の交流タイムとしては、3～4人の小グループに分かれて、グループ学習の苦労話など、とても参考になるお話しをお聞きし、学年を越えた交流が図れました。29期生からの贈る言葉の後、卒業記念品として、陶芸の赤松先生に作陶いただいたマグカップを贈呈しました。記念撮影の後、3年生は在校生によるアーチをくぐって退場されました。心



暖まる楽しい歓送交流会になりました。ご卒業後も健康に留意され、更なるご活躍を祈念します。

音楽文化専攻

30期 織野 正

音楽文化専攻28期生の「卒業演奏会」と「歓送交流会」が、3月1日カレッジホールで行われました。令和5年度の音楽文化専攻の締めくくりイベントとして、各学年が合唱と合奏を披露、感動の歌声と素晴らしい演奏がカレッジホールに響きました。特に28期生「卒業演奏会」での和太鼓とパーカッションは迫力満点で圧巻でした。この日に向けて、



講義がない日にも集り練習したことも、また放課後の居残り練習したこともありました。その情熱と努力が結実した一日でした。

最後は斉田好男先生と松村公彦先生によるデュオ「遠い世界へ」で交流会に花を添えていただきました。

園芸専攻

30期 森本 薫雄

3月11日にカレッジホールにおいて、総勢76人で園芸28期生23人の歓送交流会が開催されました。29期生代表の開会あいさつの後に来賓代表の金地先生から祝辞があり、グループ学習の内容を称えられ、ビニールハウスの送風装置の設置について28期生へ感謝を述べられました。その後、「カレッジの思い出」のスライドが上映され、卒業生にとっ

ては懐かしい思い出だったでしょう。在校生にとってはこれから学ぶ世界を少しのぞかせていただきました。

アトラクションは、まず混声合唱団コーロKSCの「LOVE」ヒットメドレーで、懐かしい歌に小さく口



ずさみながら耳を傾けた後は、ご自身も卒業生である天満家うつぼさんの落語「三十石」で会場は笑いに包まれました。

卒業生代表の在校生に贈る言葉でも、送風装置について触られました。ありがたく活用させていただきます。マスクとうがいと検温にオンライン授業など、新型コロナウイルスと共に歩んだ学園生活のお話も印象に残りました。最後に実行副委員長の「後は任せてください」という力強いあいさつで会場は沸き、卒業生と来賓にサイネリアの鉢植えが手渡されて閉会となりました。

食文化専攻

30期 伴地 政壽

3月11日カレッジホールにて食文28期生の歓送交流会が実施されました。29期生と30期生が拍手で迎える中28期生が入場し中央に着席しました。

開会の辞の後、来賓代表の清水典子先生より祝辞をいただきました。その後卒業生と在校生がともに参加するアトラクションが始まりました。

KSCアロハハワイアンズの演奏とフラダンスでは、「月の夜は」で希望者が客席から前に飛び出して一緒にフラダンスを踊り、手話ソングでは、手話の手法と演技の披露の後に客席も一つになり手話ソングを体験することができた時間でした。男声合唱団の歌声で元気をもらい、替え歌「三百六十五歩のマーチ」は客席も一緒になって全員で合唱し、KSC太極拳クラブの演技では、希望者も一緒に体を動かしました。最後のアトラクションは民謡同好会で、歌と楽器でにぎやかに時間が過ぎ、炭坑節では大勢が前に出て大いに盛り上がりました。

その後、28期生代表より3年間の学園生活の歩み、苦労・失敗談・達成感などの感想とお世話になった方々へのお礼の言葉



が語られました。続いて清水先生と事務局の渡部さんへお礼の言葉と共に花束が贈呈されました。閉会の辞の後、「卒業おめでとうございます」の言葉と共に、食文恒例となっている手作りクッキーが手渡され、拍手とアーチの中を3年生が退出されて歓送交流会の幕を閉じました。

新入生歓迎交流会

5月21日～24日に、31期生各コース・専攻の新入生歓迎交流会がカレッジホールで行われました。

健康ライフコース

31期 宮城 章吾 谷 能成

5月24日、健康ライフコースの新入生歓迎交流会が開催されました。われわれ新入生は上級生の拍手で迎えられて入場し、新入生と上級生の対面あいさつから交流会が始まりました。

事務局からは、これからの学園生活で、多くの経験と多くの人とのつながりを作ってください。そのためのサポートを行いますとの言葉をいただきました。また、上級生の方々からは、学園生活の過ごし方について、ご自身の経験に基づいたさまざまなアドバイスをいただき、これからの学園生活が少しはイメージできたように思います。

各クラブによる歓迎アトラクションでは、音楽演奏やダンスを楽しみました。また、スポーツ吹き矢の実演があり、新入生による体験では、矢が的に命中するたびに歓声が上がりました。



最後に、1年生のクラス代表から、歓迎交流会の開催に対する感謝の言葉とともに、これからの3年間が楽しみであり、マイペースで楽しくやっていきたいとのあいさつがありました。

新入生退場時には、上級生からプレゼントを手渡していただきました。このような楽しい企画を立てていただき、ありがとうございました。

国際交流・協力コース

31期 浅井 富美 安田 維之

沖縄地方が梅雨入りした5月21日、しあわせの村は晴れ渡り初夏の陽気となりました。

10時30分。各コース・専攻の先陣を切って、国際交流・協力コースの新入生歓迎交流会が開催されました。

先輩方の手拍子で迎えられ交流会が始まりました。

3年生クラス代表の大中さんから、「各種委員会、クラブ、ボランティアに参加して多くの人とふれあう中で有意義な学生生活を送ってください」との歓迎の言葉をいただきました。

実行委員長の大田さんからは、しあわせの村の四季折々の風景を織り込んだスライドで、昨年一年間の振り返りを軽妙な語り口で紹介していただきました。

その後は、各クラブによる歓迎パフォーマンスです。まずはKSCアロハワイアンズの思いのほか（失礼）本格的なフラ



ソングとダンス。KSCオールディーズクラブの歌は1960年代の古き良き時代のアメリカ。2年生アンケートによる好きなフォークソングBEST10に誘われ、とどめはKSCフォークソング・クラブといっしょに歌った青春時代思い出の歌。

先輩方の体験に基づいた助言や熱の入ったパフォーマンスに、私たち新入生は学びとともに新しい仲間との出会いやボランティアなどを通して、これからの学園生活を充実させたいとの思いを強くした1日でした。

ECOライフコース

31期 倉光 寛 志水 直樹

5月21日午後、ECOライフコース新入生歓迎交流会が開催され、先輩方の拍手に迎えられて入場しました。

開会の辞の後、3年生の八尾さんと木村さんから、シルバーカレッジでの楽しい経験（クラブ活動と3年生のグループ学習）について実例を交えて紹介があり、今後の3年間でどんなことをしようかと思いを馳せながら聞き入りました。

事務局の紹介・あいさつの後、事務局の堀さんから、コースの名称の変遷（環境生活→生活環境→ECOライフ）について説明がありました。ECOライフコース発足にあたってはSDGsの観点を取り入れ、カリキュラムを再構築中で秋以降の内容や講師もFIXしていないとのことで、シルバーカレッジとしても新しいことにチャレンジしていることが印象的でした。

アトラクションでは、KSC軽音楽クラブの演奏、KSCアロハワイアンズの演奏とフラダンス、混声合唱団コーロKSCの合唱が披露されました。特に印象に残ったのは、KSCアロハワイアンズのボーカルの音域と音量がシルバーカレッジに通う人のものとは思えないということでした。



新入生あいさつは、代表一人ではなく、新入生全員であいさつする演出をしました。先輩達には内緒で練習して披露したので、先輩たちへのサプライズになったと思います。

美術・工芸専攻

31期 二田 真紀 渡辺 真理子

バラの花が満開でお出迎えしてくれた5月22日、美工31期生の歓迎交流会を開いていただきました。

まずは、懐かしいメロディが流れKSCオールディーズクラブによるオープニングステージを披露していただき、ほっこり気分での会のスタートをきりました。どのように会が進められるんだろう、と思っていたのですが、曲が始まるとKSCオールディーズクラブの皆さまの明るい笑顔につられて思わず笑顔になりました。

29期の先輩からのお言葉で『縦のつながり縦の贈り物』という言葉や『楽しんで！』という励ましの言葉に感動し30期の先輩方からは学園生活のスライドショー。漠然と不安に思っていたことがここで払拭されワクワクに変わったのでした。

次は、顔を合わせるだけでいつも笑顔になれる事務局の加藤さんの歓迎紙芝居『びこうへようこそ』。にっこりほっこりとなり感謝の気持ちでいっぱいになりました。

交流タイムでは先輩方と直にお話しでき、これからの学園生活が楽しいことだらけであることを教えていただき、アトラクションで始まったKSCアロハハワイアンズの優美で表現力豊かな踊りに魅入り、クラスメート達の初めての踊りの健闘に笑いながら拍手し目一杯楽しむことができました。



我らがクラス代表の山本さんと岡田さんのあいさつ。山本さんのお母様の実体験（学業以外のお付き合いについて）のお話を興味深く伺い、私もクラブ活動やその他のつながりも楽しもうと心に誓いました。

30期生クラス代表の方のお話で、一期一会を大切に、ドキドキをワクワク生き生きに変えて、技能以外も習得できるように、とのお言葉で締めくくっていただきました。

記念品「クロッキー帳とスケール」をいただき、嫌いなデッサンも頑張ろうと心に誓い気分よく会場を後にしました。

音楽文化専攻

31期 横山 光代 安田 充利

5月22日に音楽文化専攻の歓迎交流会がカレッジホールで行われました。拍手の中での入場という状況から、新入生歓迎の言葉とプログラムが進むうちに暖かく大切に迎えられているのが伝わってきました。合唱交流やアトラクションで、その印象が正しかったことを実感しました。私たち31期生を音楽文化専攻の家族として迎えてくれていました。

皆が取り組める「手のひらを太陽に」と「Believe」に曲を決めました。クラス代表や指揮者、ピアノ伴奏の方々が交流会に間に合うように皆をまとめてくれました。拙いものでしたが、皆が精いっぱい取り組んで今できる最高のものができました。



29期生、30期生のプログラムから私たちちもシルバーカレッジで学ぶなら、あの美しいハーモニーを奏でることができるのかと聴き入っていました。また、新入生をあのように温かく迎える音楽文化の校風も知りたいと思いました。

心のこもった歓迎会、ありがとうございました。先輩・事務局の方々のサポートをこれからもよろしくお願いします。

園芸専攻

31期 西網 寛治 濱田 清勇

新入生の歓迎交流会が5月23日にカレッジホールにて開催されました。会場に入るとテーブル上にマリーゴールドの花が飾られており、さすが園芸専攻と思いました。

最初に30期生による歓迎のあいさつをいただきました。スピーチにおいて「園芸は子育てと同じ。どれだけ手間をかけ愛情を持って育てていくか」との言葉には感銘を覚えました。

引き続きアトラクションとして①KSCアロハハワイアンズによるダンスと生演奏②KSCオールディーズクラブによる懐かしい曲の合唱③KSC太極拳クラブによる演武が行われ、



シルバーとは思えないほどの迫力に感動しました。今年度は各アトラクションにわれわれ31期生を巻き込んでの演出であり、園芸専攻の一体感が感じられました。特に太極拳による練功は、日常使われることの少ない体の部位を効率よく動かすため、今後の健康維持増進に有効であると思いました。

最後に、新入生代表・山本様、29期生代表・松林様からの言葉「人としての協調性、コミュニケーション」は、今後の充実した学園生活を送るうえで必須だと改めて感じました。

食文化専攻

31期 大須賀 康敏 長光 元久

新入生歓迎交流会が5月23日にカレッジホールで開催されました。開会の辞は、30期の三谷代表から、高倍率の抽選を潜り抜けた新入生の強運についての称賛と学園生活について楽しく、おもしろい紹介をいただきました。

来賓祝辞として、元神戸女子大学家政学部准教授の清水典子先生から、今はチャレンジの気持ちが湧いてきている時期です。KSCの夢をかなえるカリキュラムを活用し、3年間を楽しんで学んでほしいとのごあいさつをいただきました。

次にアトラクションとして、KSCフォークソング・クラブの70年代の曲の演奏、あかりの会の朗読、KSCオールディーズクラブの懐かしい洋楽の合唱、KSC太極拳クラブの演舞を皆さまが元気いっぱい楽しそうに披露され、会場全体で大いに盛り上がりしました。



続いて、上級生から「一年総まとめ調理」の様子をスライドで紹介いただき、先輩方のレベルの高さに驚かされました。その後、新入生代表として前部さんが「一年総まとめ調理」に向けての決意表明と感謝の言葉を述べました。

心のこもった歓迎交流会の開催、本当にありがとうございました。これから3年間の学園生活をわれわれの強運（根拠なし）を信じ、カー杯、楽しく学びたいと思います。

教室だより

健康ライフコース

健康30期 三枝 美知代

人生100年時代と言われます。ですが、年を重ねて病み疲れた私には、到底無理な話だと思っていました。そんな時、シルバーカレッジの健康ライフコースを知りました。主旨としては、健康を身体的、心理的、社会的な側面から総合的に学ぶとともに、健康づくりに必要な生活上の知識、社会参加を学ぶ、とのこと。こちらで学ぶことによって、何らかのヒントをもらえると思いました。

授業はわかりやすく、楽しいものでした。4月の授業はアイスブレイキングがありました。2人1組になって相手の話をよく聞き、その人の紹介を他の班の皆にするのです。2班全員が笑い興じました。昼食も机を囲んで、楽しく喋りました。

特に楽しかった授業は東洋医学ツボ健康法でした。鍼灸師の長野仁先生のユーモラスな話と説明に、時間が経つのも忘れしました。先生はNHK教育テレビのツボエクササイズ講師をされていて、「はらのなかのはらっぱで」という絵本の監修をされています。腹の虫がユーモラスに描かれていて、必見です。

5月に行われた「新入生歓迎交流会」は、KSCマジック同好会のパフォーマンス、KSCオールディーズクラブ、KSCアロハワイアンズ、ザ・カスターネットと、盛りだくさんで感激しました。スポーツの実技はベタンク、ローンボウルズ、コンディショニング、ピラティスなど初めて体験するものでした。

10月の学園祭も、皆で大いに楽しみました。講義ではこれからの健康管理について、ICTを知ろう、神戸の高度医療について、WHO健康の概念、都市の防災と地域福祉について等々学びました。今年1月に行われたジョイラックデーでは、地域の歴史や地理を知り、清掃活動や文化財を見て大いに語り合いました。私たちは人口減少、少子高齢化、気候変動による自然災害の増加、大型地震の発生に見舞われています。特に神戸はマグニチュード7.3の阪神淡路大震災に見舞われ、死者6,437人、住宅全壊10万5千棟という未曾有の災害となりました。たった29年前の出来事です。それでも神戸は復興を遂げています。

「再び学んで 他のために」を心に刻んで残りの人生をカレッジの皆さまと歩んでいきたいと願っています。

国際交流・協力コース（校外学習の魅力）

国際30期 大田 正和

国際の授業の中で魅力的なのはなんと言っても校外学習です。

1年の時は、JICA関西で海外協力隊の活動内容につ

いての説明を受けた後、途上国のエスニック料理を食べ、2月には神戸華僑博物館館長から「神戸華僑の歩み」の説明を受けた後、神戸華僑博物館を見学しました。

入学時は教室の中だけの授業と考えていたので、カレッジの教室を出て、これまで知らなかった神戸のさまざまな歴史、現状を現地で味わえる「校外学習」は大変勉強になります。校外学習の時はほとんど欠席者がいないというのも皆が校外学習に興味を持っていることの表れだと思います。

2月26日、共通授業での「国際都市神戸の系譜/阪神間モダニズム」の講義、4月12日の「豪商神兵 湊の魁（さきがけ）～明治中期神戸の商工観光名鑑 居留地と神戸港～」の講義、2週間後の4月26日、講義に登場した名所・旧跡を訪れる形での「校外学習 旧居留地・神戸港」と、まさに楠本先生の絶妙なプログラムとして3部作が実施されました。

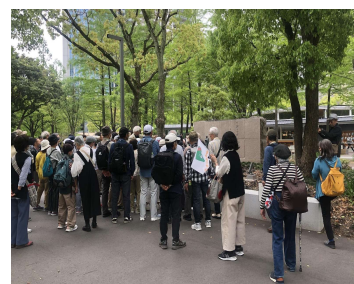
神戸市役所にクラスメンバー58人中の52人が9時15分に集合し、市役所24階展望ロビーでガイドさんの説明を受け、東遊園地～外国人居留地～神戸事件記念碑～メリケンパークまで楠本先生の説明をうけながらの約6kmの散策でした。

当日は、ツツジが満開で新緑が目にも鮮やかな絶好の天気、修学旅行生の団体で賑わう中、長時間ながら気持ちのいいウォーキングでした。

その後には遊覧船で神戸港巡りを行いました。これまで何回も乗船している遊覧船ですが、神戸開港の歴史についての授業があったばかりで、ひときわ印象深く、船上から見る神戸港はまた格別でした。

下船後、明治天皇御用邸跡記念碑で説明を受けた後、いったん解散となりました。

時間はすでに13時前、久しぶりの長時間の運動でへとへとになった方、次の史跡に向かう元気なメンバー、班の懇親会会場に向かうメンバー、それぞれでしたが、授業と一体になった校外授業で、これまで知らなかった神戸を発見でき、参加者全員にとって有意義な1日になったことと思います。



生活環境コース

（考えさせられる講義と校外学習の数々）

生環30期 井上 薫

生活環境コースの2年次が34人でスタートしました。教室の半分以上が空席です。これまでずっとマスプロ教育の中

で育ってきた者にとっては、これはこれで新鮮です。ただ、いろんな役が、何もかもがすぐに回ってきます。しんどいけれどもこれらをやり通して、達成感、満足感を味わえられれば、これまた新鮮でしょう。

私たちの学年で「生活環境コース」の名称は最後になります。講義を受ける中で、環境に配慮したくらしを实践することの難しさが、少々息苦しく感じることもあります。しかし、自然との共生には環境への取り組みが必要と理解すれば、また違った意識が芽生えます。

生活環境コースには、校外学習が多く組まれています。名前は知っていても普段なかなか行くことができない場所も多く、家電リサイクル工場や布施畑環境センターにも行きました。これら工場内での作業を目のあたりにして、頭が下がる思いでした。経済優先、競争社会の中で過ごしてきた者として、その発展過程も、現状も否定しないのですが、やはり、経済活動においても環境に配慮した取り組みが必要だったのかと……。フラワーセンターや人と自然の博物館にも行きました。これらでの自然観察で癒されました。が、しかし、これら施設にも環境問題が忍び寄っていることを知り、考えさせられました。

ここで気分を変えます。フラワーセンターで買った赤と紫のチューリップが咲きました。一緒に買ったネモフィラは、この原稿を書く時点では、残念ながらまだです。この自然を大切にしよう。そのためには、言葉だけでなく、自然環境に配慮した生活を実践しよう。誰かのキャッチフレーズではありませんが、小さなことからコツコツと、出来ることからコツコツと実践していきます。クラスの皆も、きっとそう思っていることでしょう。



生環30期 加藤 尚子

「山歩きと生き物が好き、自然保護に興味がある」ことがきっかけで選んだ生活環境コースも、早や2年次に突入しました。この1年は、新鮮な驚きの連続でした。まず、このコースの守備範囲の広いことに驚きました。SDGsと地球的規模で世界が直面する解決すべき問題、そして私たちの生活との関連を基礎知識として学びました。脱炭素という地球的な規模のテーマに対して、今も温暖化は止まらず、老年期の私たちに一体何ができるのか、一人で考えているとややもすると無力感を覚えます。

そんな時に「私たちはどう生きるか」、「未来に何かできるか考えよう」とこんなアオハルな話題に真剣に向き合い、話ができる仲間がいるということは、素晴らしいことで、仲間からたくさんエネルギーをもらうことができました。また、自然観察体験、

エコクッキング実習、多彩な校外学習など、五感で楽しみながら学ぶことができるのは、このコースの強みだと思います。

これからの学びのなかで、入学した時の原点に返り、当事者意識を持ちながら、身近な環境問題に対して、アクションを起こすことを目指していこうと思います。

美術・工芸専攻（中堅学年となって）

美工30期 岡本 雅博

麗らかな春の日差しを感じながら、4月5日に1学期がスタートしました。2年生と言えば、中堅学年として、3年生を支え、1年生を引っ張っていく立場にあり、行事やクラブ活動、地域活動でも役職に就く人も多く、1年生であった昨年とはクラスの皆さんの顔つきも変わってきたように感じます。

さて、私たち30期は珍しく男女比率もほぼ半々で、個性豊かな方が多いのですが、授業やランチ会、親睦会などを通してとても仲良く、お互いに助け合い、前向きな行動をとれる素晴らしいクラスです。そんなクラスですので、最初のホームルームでの歓迎交流会の話し合いでは、役割分担も予想以上にスムーズに決めることができました。その後、担当ごとの取り組みも順調に準備を進めてくれています。「再び学んで 他のために」のカレッジのモットーをまさに実践していると言えます。

新学期が始まり、陶芸の授業では、昨年の復習として、「手びねり」や「ひもづくり」で自由な作品作りに取りかかっています。花瓶を作る人、大きめの椀を作る人などさまざまですが、明らかに手際が良くなっているようです。また、今年から電動ろくろを使うのも楽しみの1つです。

ところで、昨年度末に行われた前3年生のグループ学習発表会が刺激となりました。今年1年をかけてどんなテーマや研究内容を考えるかも私たちの課題と言えます。

油絵・アクリル画の授業も本格的に始まり



りました。最初は静物画を描くのですが、どの角度からモチーフを描けばよいのかに迷い、デッサンで終わってしまう人が多かったようです。自宅での作業に追われそうです。

さて、私たち30期は授業中時々、脱線してしまうこともありますが、先生方の暖かいご指導や事務局の加藤さんのサポートのもと、各自のレベルアップを目指して日々励んでいます。そして、これからもみんなで楽しく充実した学園生活を送れるよう努めていきたいと思っています。

トピックス ～ 第51回神戸まつりに参加して ～

第51回神戸まつりにボランティアとして参加された2つのサークルから活動の報告をしていただきました。

～～～ KSCイベントぴかぴか隊 ～～～

国際30期 稲積 義則

4月21日に例年より1か月早く第51回神戸まつりが開催されました。今年も総おどりや色とりどりの衣装をまとったサンバチームなどがおまつりパレードに登場し雨模様にも負けない熱気が沿道を包んでいました。

おまつりパレードが行われる中、われわれ「KSCイベントぴかぴか隊」22人とOB組織である「神戸ぴかぴか隊」約130人がボランティアとして参加しました。会場案内、迷子確保や清掃などの活動を行い、メイン会場のフラワーロード東側と東遊園地を担当しました。

すれ違うボランティアのほとんどが仲間の隊員であり、ものすごい存在感を感じるとともに、観客や出演者から「ありがとう」

と声掛けされ、なんとなくうれしくなったりしました。初参加の隊員からは、久しぶりの神戸まつりを楽しみながらボランティアできてよかったという声が多く、地元神戸の盛り上げに貢献できたのではないかと感じることでできた1日でした。

これから「神戸マラソン」、「阪神淡路大震災1.17のつどい」や「ルミナリエ」などのイベントにもボランティア参加していく予定です。さらに、来年は、阪神淡路大震災から30年目の節目の年になり、今年11月から1年間、震災の経験を広く継承・共有するために色んな記念事業が開催されます。皆さんもこれらにボランティアとして参加して、愛する地元神戸をいっしょに盛り上げましょう。



～～～ KSCアロハハワイアンズ ～～～

音文30期 芝 則子

雨のイメージが強い神戸まつり、今年は1か月早かったにも関わらず、やはり小雨の中での開催となりました。

私たちKSCアロハハワイアンズはフラダンス8人、バンド5人の総勢13人でメリケンパークのバラエティステージに出演しました。フラダンスは昨今のブームで教室も増えて、さまざまなグループがイベントに出演されていますが、私たちのように生バンドのあるグループはあまりないように思います。

披露した曲は「ビヨンドザリーフ」「バリバリの浜辺で」「カノホナピリカイ」「カイマナヒラ」「エフリマコウ」の5曲で、「カノホナピリカイ」は日本で馴染みの「涙そうそう」をハワイアンにアレンジしたものです。

フラダンスは、歌詞を手の動きで表現しているので、手話のようだとはいわれています。すべて意味を持ったメッセージがあり、それを伝える踊りでもあります。

ステージでは素足にかかる雨水の冷たさも何のその、お客さまに歌の言葉を伝える気持ちで、一曲一曲、心を込めて踊りました。途中、船の汽笛がそれに応えるかのように驚くほど近

くで「ボーッ」と大きく鳴り響いた時には、広い舞台の上で神戸の空と海に全身が包まれたような不思議な感動を覚えました。この体験は何物にも代えられません。

メンバーの中には入学して初めてフラダンスを覚えた人もいます。皆ハワイアンが大好きで日々練習を重ね、先輩方に支えられてステージに立つために頑張っています。

このような大きなステージに出演する機会が持てるのもKSCサークルならではと言えるので、貴重な経験をさせていただいたことに大変感謝しております。

この感動を胸に、メンバー一同、また次のステージに向けて練習に励んで参ります。



文芸サロン

《俳句クラブ》

音の出ぬリードオルガン春の昼
桜鯛俎板の白朱に染めて
おちこちに声色違ふ猫の恋
桜散る城の白さやお堀端
春の岬一つとなれる空と海
縦走路ひかりの海へ初桜
炊事場に包丁の音水温む
北窓を開ければ見ゆる山あらた

《川柳くらぶ》

おしゃべりは空気なごます栄養素
人と天同じ景色のガザと能登
息苦し空気薄いかうその家
太いほど一度切れば繋げない
ゆうバック郷の空気と母の味
仲たがい繋いでくれるうちの犬
生きづらい 空気のような人消える
ホームから見えてる父のいる景色
血管が浮き出た手を見グーチョコキパー
崩れゆく形あるもの無の境地
場の空気読めぬ雀の姦しさ
食欲が繋ぐ命の尊さよ

《応募作品》

ケーキなら欲張ってみる食べ放題
選べるが書けない漢字増えてくる

文芸サロンへの投稿や爽風への

ご意見・ご感想はこちらから



土屋 博子
土屋 博子

千足 千
千足 千

古宮 博美
古宮 博美

渡辺 かおる
渡辺 かおる

北川 都
北川 都

佐藤 眞巧
佐藤 眞巧

名定 博
名定 博

寺尾 隆志
寺尾 隆志

中井 芳樹
中井 芳樹

千足 恵美子
千足 恵美子

奥山 繁男
奥山 繁男

佐野 貴代美
佐野 貴代美

事務局だより

◆事務局職員の人事異動

	〈退任・転任〉	〈後任〉
	— 3/31日付 —	— 4月1日付 —
カレッジマネージャー	堀 茂	石野 竜一郎
教務リーダー	高松 秀夫	池田 頼信
コーディネーター	青木 孝知	堀 茂
	— 12月31日付 —	— 1月1日付 —
スタッフ	福岡 明子	山本 奈津子

◆事務局職員就任のあいさつ

《石野 竜一郎》

カレッジマネージャーに着任しました石野です。3月までは西区役所で働いていました。思い起こせば社会人になって最初の職場が神戸市外国語大学の事務局でした。それから長い年月を経て再び学びの場の事務局で働くことを嬉しく思っております。着任してすぐに学生の皆さんのパワフルさを実感しましたが、皆さんに負けないう頑張るつもりですので、どうぞよろしくお願いいたします。

《池田 頼信》

4月より教務リーダーに着任いたしました池田です。全くの異業種からの転職で、この度シルバーカレッジのお仕事に参加させていただくことになりました。新しい業界でのチャレンジなので毎日が新鮮なことばかりでとても刺激的です。関連スタッフや学生さんからさまざまな事を吸収し、一日も早く還元できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

《堀 茂》

4月から生活環境/ECOライフコースのコーディネーターを担当することになりました堀です。3月までカレッジマネージャーを務めていました。環境問題やSDGsをより分かりやすく身近なこととしてとらえ、私たちが取り組めることを考える。そんなお手伝いができたらと思っています。

《山本 奈津子》

スポーツを担当させていただいております山本です。1月から就任させていただいており、気軽に声をかけてくださる学生の皆さまから活力をいただいております。皆さまのカレッジライフがより充実し、楽しいものとなるよう、心を込めて尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

グループわ だより

カレッジ学生向けパソコン教室を開催しています

グループわ では「カレッジ内パソコン教室」を5月から
月2回、水曜日の放課後に
1回2,000円で実施しています。

1学期はすでに5月実施
の2回が終了していますが、
6月2回、7月2回の4回
実施予定です。奮ってご応募
ください。

カレッジ内 パソコン教室

対 象: カレッジ学生 1~3 年
場 所: 園芸室
開催日: 5月15日(水)、5月29日(水)
6月19日(水)、6月26日(水)
7月10日(水)、7月24日(水)
受講時間: 14:45~16:30
受講費: 1回 2,000円
キャンセル料: 前日 16:30 まで無料、以降 1,000 円
無連絡キャンセルは全額 2,000 円徴収

Point1. マンツーマン指導だからあなたのペースで学べます。

Point2. 回数に制限はありません。わかるまで受講可能です。

Point3. 講師は「パソコン何でもお好み塾」の講師です。パソコン無料貸出あります。

日本赤十字に寄付しました

◎能登半島地震災害義援金

1月1日に発生しました能登半島地震について義援金
を受け付けていました。

グループわ 会員およびシル
バーカレッジの皆さまのご協力に
より集まりました義援金は、
230,200円（4月末現在）
となりました。ご協力いただきまし
た皆さまに感謝申し上げます。

皆さまからお預かりした義援
金は、神戸市社会福祉協議会
を通じて日本赤十字社から被災者支援に活用する方法で
支援いたします。



図書室だより

31期生の皆様のご入学、そして2年生・3年生の皆様の進級、おめでとうございます。

図書室の運営を担う「図書委員会」は各学年・各コースから「図書委員」を選出していただき、4月19日より新体制でスタート
しました。年度初めに当たり「図書室のあるある」を紹介して、皆さま方の図書室ご利用をお待ちしています。

☆今年度図書委員の人数と内訳

- ・委員総数 : 106人 (昨年度より+26人)
- ・内 訳 : 1年33人、2年39人 (経験者11人: 28%)、3年34人 (同19人: 56%)

☆図書室の居室環境 (一般教室との比較)

- ・教室より高い天井・広い窓、余裕のある机・イスの配置、明るく静かな環境

☆蔵書、閲覧物の概要

- ・貸出し書籍 : 約6,000冊「専門書から文学書 (小説) まで」
- ・雑 誌 : 【月刊誌】10誌「各コース対応」、【2か月毎刊行】1誌、【週刊誌】2誌
- ・新 聞 : 4紙 (朝日、毎日、日経、神戸)

これまで「図書室だより」に掲載していた＜新着図書＞の紹介は、事務局前の階段の壁にあるボードに掲示されていますので、
そちらをご覧ください。

編 集 後 記

🌸この「爽風」2024年6月号は、この4月から新たに編集
委員となった27人を迎えて最初に発行する「爽風」になります。

ここ数年、情報誌編集委員会は、4月特別号をのぞいて「爽
風」を2か月ごとに年6回発行してきました。今年度から、6月、
9月、12月、翌年3月、翌年4月の年5回発行になります。
削減の目的は委員の負担を少しでも軽減することです。

また、誌面や内容についても、昨年のアンケートを参考にして、
より時代と要望にそったものにしていきたいと考えています。

これからも情報誌の質を高めるため、編集委員一同、力を合
わせて努力してまいります。皆さまの変わらぬご支援を心より願
い申し上げます。

🌸ひとまず「爽風」を手にとってください。

目次で自分が関係する行事や専攻コース、サークルの
記事を探し、そのページだけでも目を通してください。つい
でに他のページもチラッと眺めてください。

カレッジのホームページにある [情報誌「爽風」]
のリンクボタンからバックナンバーをみることもできます。

少しでも多くのかたに見て読んでいただくことが、情報誌
編集委員の励みになります。